

春の選抜高校野球が開催されている。プロ野球もまもなく開幕する。甲子園のスターであり、プロ野球でも大活躍した松井秀喜さんの星陵高校野球部時代の恩師である山下智茂さんの話である。

高校時代の松井秀喜選手のことでもいまでも忘れられないのが、入学した日、「おめでとう」と言っ  
て握手した時のことです。手が象の皮膚のように硬くひび割れていたのです。ちょっとやそつ  
の素振りではあはなりません。こいつ、どんだけ練習してんのや、とこっちが驚くほどでした。

才能もあったけど、才能を生かすための努力を怠りませんでした。それに両親もしっかりした  
方で、3年間で松井の両親と話したのは3回しかないんです。

まず入学に際して「よろしくお願ひします」。ドラフトの時、「先生、相談に乗ってやってくだ  
さい」。そして卒業の時、「三年間どうもありがとうございました」の3回です。

野球部の中には「監督さん、なぜうちの子を試合で使ってくれないの?」「なんでうちの子ばかり  
叱られるの?」と言ってこられる親御さんもいますが、松井の両親は100%息子を信じ、学校  
を信じてくださっていたから、一切口出しはなさいませんでした。

彼は高校時代、電車で1時間かかる町から通っていたのですが、行き帰りで本を読むように勧め  
ました。最初は野球が上手くなってほしいから野球の本を読ませていましたが、次第に『宮本武蔵』  
や『徳川家康』などの歴史小説を薦め、最後は中国の歴史書とか哲学書を読ませました。プラトン  
とかアリストテレスとか。

本を読めば知識が広がるだけじゃなくて、集中力が高まるんです。それは打席に立って発揮する  
集中力に繋がるんですね。

それに彼にはただのホームランバッターではなく、王・長嶋に次ぐ本物のスターになってほしか  
ったから、「日本一のバッターを目指すなら心も日本一になれ」といつも言っていました。

彼は最後の夏の甲子園で話題になったでしょう。実はあの前年、高校選抜と一緒に台湾に行った  
んです。現地の審判だから当然台湾びいきで、顔の前を通ったような球もストライクにする。松井  
は頭にきて、三振するとバットを地面に叩きつけたんです。

その時「おまえは日の丸をつけて来ているんだ。石川代表じゃない。球界最高のレベルを目指す  
なら、知徳体の揃った選手になれ」と懇々と話をしました。

彼がいた3年間は甲子園に連続出場できたし、最後の国体では優勝もしました。スケールの大き  
な夢を追いかけた楽しい3年間でした。

松井秀喜さんに関しては、今までも、その才能を開花させるに至ったエピソードをいくつか知る  
機会はあった。今回は、遂に“松井秀喜さんの才能を花開かせたもの”に辿り着いた感がある。や  
はり、才能だけではなく、人との出会いが大きかったことがわかる。加えて、高校生のうちから宮  
本武蔵、徳川家康、歴史書、哲学書、プラトン、アリストテレスを読破しているのである。ただ者  
ではない。人としての土台、ベースが違う。世界に誇れる日本人の一人である。